

平成 24 年 2 月 21 日

釧路湿原におけるエゾシカ生息状況調査の結果概要

道総研環境科学研究センター自然環境部
道東地区野生生物室 研究職員 稲富佳洋

1 調査目的

自衛隊のヘリコプターを用いて冬期の釧路湿原を飛行し、上空からエゾシカの観察頭数や位置情報を記録することによって、釧路湿原におけるエゾシカの越冬状況を把握することを目的とした。

2 調査日及び調査地域

- (1) 平成 24 年 2 月 11 日 釧路湿原南部
- (2) 平成 24 年 2 月 12 日 釧路湿原北部

3 調査方法

あらかじめ設定された飛行ルートに沿って飛行し、上空から目視によって発見したエゾシカの群れの頭数、構成、位置、生息環境等を記録した。

4 結果概要

(1) 飛行ルートについて

- 南部は、昨年度（平成 22 年度）に調査を実施しなかった地域で、今回初めて調査を実施した。
- 北部（宮島岬・キラコタン岬周辺）は、昨年度の調査で最もエゾシカが密集していた地域で、昨年度よりも広範囲を低速で飛行し、エゾシカの見落としが少なくなるよう配慮した。
- 北部（コッタロ展望台周辺）は、標茶町でエゾシカの捕獲事業を実施予定の地域。

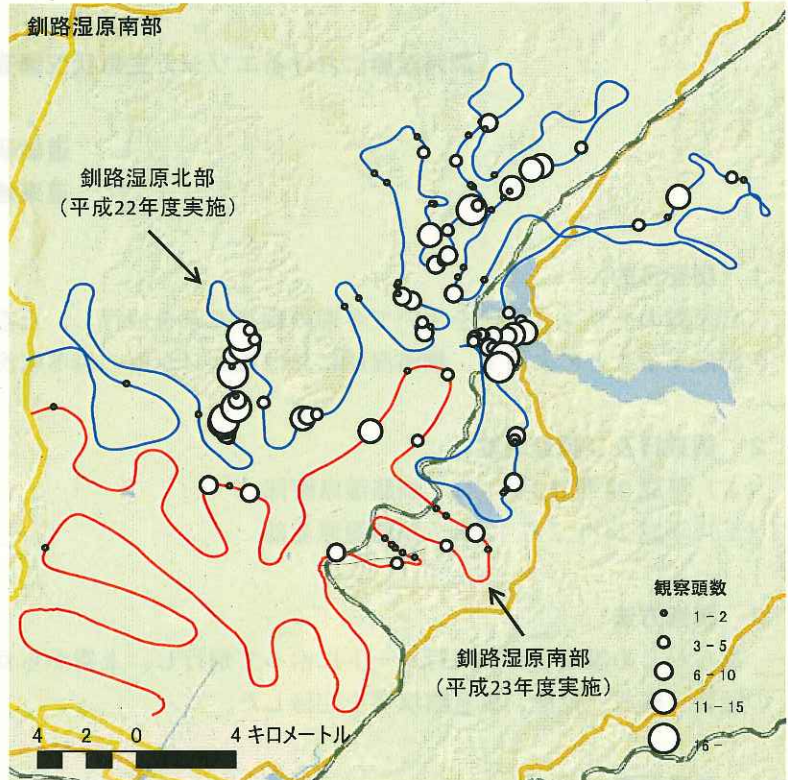


(2) 釧路湿原南部

観察頭数	72頭
飛行距離	95.3km
平均速度	108.6km/h
飛行面積	約138km ²
観察密度	0.5頭/km ²

○昨年度実施した釧路湿原北部の結果(4.6頭/km²)に比べて非常に低い観察密度だった。

○湿原内部よりも、湿原周縁部の広葉樹林やカラマツ人工林で観察された群れが多かった。



(3) 釧路湿原北部 (宮島岬・キラコタン岬周辺)

観察頭数	202頭
飛行距離	57.8km
飛行速度	77.0km/h
飛行面積	約28km ²
観察密度	7.2頭/km ²

○狭い調査面積で、南部よりも多数のエゾシカを観察した。

○北側よりも岬に近い南側で観察されたエゾシカが多かった。

○森林部(広葉樹林)で観察された群れが多かった。



(4) 釧路湿原北部 (コッタロ湿原展望台周辺)

観察頭数	161頭
飛行距離	13.4km
飛行速度	87.7km/h
飛行面積	約5km ²
観察密度	32.2頭/km ²

- 今回調査した地域では、最も高い観察密度を示した。
- 大多数のエゾシカは、森林内(カラマツ人工林・広葉樹林)で観察された。
- 一部のエゾシカは、湿原内(ハンノキ林)で観察された。
- 15頭以上の大きな群れが複数観察された。

